

### 3 残された問題点と解決方針

礁湖内における藻場造成対象種類として、アジモ、ホンダワラ類をとりあげて試験、調査を行ってきた。

アジモ場：造成手法として生物学的手段を導入することは困難であり、アジモ場の形成に必要な地盤高の変動下限を提示するのにとどまった。今後アジモ場の経年消長や突堤等海中構築物の設置等によって天然アジモ場の経年変化を機会あるごとに調査し、本研究で得た推論を検証し、将来のアジモ場造成の際にその成果を活用していきたい。

ホンダワラ藻場：濃密な採苗の面からすれば、母藻の分散的投入が望ましいが、食害の影響の面からは集中的母藻の投入が好ましい。分散的投入による幼芽の生育と魚類の食害の影響との関係はホンダワラ藻場造成の事業化に当って、重要な課題であるが、本研究では検討することができなかった。

漂砂量や浮遊砂量は各礁湖における流況特性によって異なるものであり、本研究では実験漁場においてもこれらの点を含めて環境条件を明らかにすることはできなかった。

また本研究を通して、沖縄島沿岸海域に生育するホンダワラについても、生育環境条件が異なるようであるが、種類ごとの生育条件については充分解明することができなかった。

上記の各残された問題は、本研究の成果を他の礁湖域に展開実用化されるに従って、解決されなければならない課題である。引き続き他事業によりこれらの点を解明していきたい。